

【あなたの学校のチャレンジが、日本の教育を変える】

「日本の教育の未来をつくる AI教育共創チャレンジ2026」

募集要項

1. 企画名・目的

企画名

「日本の教育の未来をつくる AI教育共創チャレンジ2026」

～日本の学校が抱えている課題の解決に、エデュテクノロジーと一緒にチャレンジする学校募集～

目的

私たちエデュテクノロジーは、多忙な先生方の働き方を根本から変え、子どもたちとの時間を最大化したいと願っています。しかし、その答えは現場にしかありません。

本チャレンジ企画は、単なる生成AIの導入ではなく、**日本の学校が抱える深刻な課題（先生方の多忙化、個別最適な学びの壁など）**に対し、**生成AIという最先端の技術を使って一緒に解決策を見出し、全国のモデルケースを創造するための挑戦**です。

学校が抱えるリアルな課題と、弊社のAI導入ノウハウと教育DXコンサルティングの実績を掛け合わせ、次世代の学校の教育モデルを創出することを目指します。

私たちと、約1年間日本の教育、そして子どもたちの成長支援に、熱い思いをもって共に伴走し、チャレンジしてくださる学校を募集します。

2. 日本の教育課題と生成AIの社会的背景

日本の教育業界の現状と課題

- **深刻な先生方の多忙化:** 授業準備、採点・評価、会議資料、保護者対応など、先生が担う業務は多岐にわたり、長時間労働が常態化しています。これにより、先生が「児童生徒と向き合う時間」が奪われ、児童生徒一人ひとりの多様性に合わせた対応や、先生の専門性が発揮されにくい状況が続いています。
- **「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現の壁:** 新学習指導要領が目指す学びの実現には、児童生徒一人ひとりの習熟度や興味に応じた教材・指導が必要ですが、それらを先生個人の努力のみに頼るには限界があります。

生成AIを活用する社会的意義

生成AIの教育現場への導入は、もはや「選択肢」ではなく「必然」です。

- **文部科学省の方針に則した課題解決:** 文部科学省は、生成AIの活用について「**教員の校務負担の軽減**」と「**個別最適な学びの実現**」の両面での可能性を強調しています。本チャレンジは、この二大課題に対して、最も効果的な活用モデルを現場主導で作り上げることを目指します。
- **デジタル庁が目指す社会全体のDX:** デジタル庁は、教育を含む社会全体のデジタル・トランスフォーメーション（DX）を推進しており、AI活用はその中核をなします。本企画は、**教育データの活用と指導の高度化**という国家的な課題に取り組む一歩となります。

3．募集対象および募集校数（予定）

以下の3つの学校種より、課題解決に意欲的で想いのある学校を募集します。

学校種	募集数	主な期待役割
私立学校	1校	独自の教育理念と進学実績への課題解決、学校独自の校務の効率化モデル構築
教育委員会 (小中学校)	1団体	地域全体の教育行政の効率化、域内全校（小中学校）へのAI導入支援体制構築モデル構築
県立高等学校	1校	大学入試改革・探究学習への対応、生徒のAIリテラシー育成における活用モデル構築

4．共創チャレンジの内容とエデュテクノロジーの提供サポート

参加校の皆様にご協力いただきたいこと

1. **リアルな課題の共有:** 貴校（貴委員会）が抱える具体的な校務・教務上の課題（例：採点時間が長い、会議資料作成が非効率など）を詳細にご共有お願いいたします。
2. **実践とフィードバック:** 当社が設計・導入したAI活用システムやDX化のための施策、及び下記のエデュテクノロジーが提供するサポート（無償）を学校として積極的に実践し、その効果と改善点を率直にご提供いただきます。
3. **成果発表への協力:** チャレンジ中の途中経過や最終的な成果を、プレスリリース、弊社ウェブサイト、または教育関連イベント等で公開する際にインタビューやご登壇のご協力をお願いします。
4. **定期ミーティング及び不定期ヒアリングのお願い:** 上記についてのお打ち合わせを最低月1回1時間（オンライン）、実施前の計画段階の時期については週1回（1時間～2時間）のヒアリング実施をお願いします。

エデュテクノロジーが提供するサポート（無償）

※一部内容によっては有償提供や外部の有償サービス利用のご相談の可能性もございます。

1. **AI導入コンサルティング:** 貴校の課題に特化した**オーダーメイドの生成AI活用戦略**を立案し、実践伴走します。（お打ち合わせ1時間～2時間オンライン、それ以降は進捗確認を月1回1時間オンライン）
2. **生成AIプロンプトサービス:** 現場の先生方が複雑な**プロンプト（指示文）**を**考える必要がない**よう、専用のAIツールと最適なプロンプト設定を構築・提供します。
3. **生成AI活用研修:** 導入から活用定着まで、先生方を対象とした実践的な研修を最低1回実施します。原則全ての先生方が参加いただくようお願いいたします。（事前お打ち合わせ1回1時間オンライン、研修120分）
4. **生成AI活用ガイドライン策定支援:** 児童生徒、保護者、先生方に安心してAI活用いただくため、これに伴う個人情報保護等を含む活用ガイドラインの策定を支援します。（お打ち合わせ1時間～2時間オンライン）
5. **教育評価研修（オンデマンド）:** 全7回のオンデマンド型の教育評価講座で生成AIを活用し実践するまでを全ての先生方が受講し、自校の評価のあり方を検討いただきます。（オンデマンド講座1本60分～90分×7本で好きな時に学んでいただけます。全員閲覧後に評価を考えるワークショップを2時間～6時間（調整）で実施します。）
6. **ICTx学びアンケート:** 年3回、児童生徒に10分ほどのオンラインアンケートに回答していただき、ICT導入における思考力や表現力の変容を測定いたします。

5．募集概要・スケジュール

項目	詳細
募集期間	2025年11月12日（水）9時～2025年12月1日（月）17時まで
選定方法	フォームにていただいた内容（書類）審査（一次）を実施、通過された学校はオンラインヒアリング約1時間程度（二次）※管理職、担当の先生最低2名のご参加を実施し、課題の具体性、課題解決と日本の学校のモデルケースとなるチャレンジへの熱意、そしてこのチャレンジを実施するための組織体制、ICT環境を総合的に評価し、選出します。
選定結果通知	2025年12月中旬にお電話及びメールにて通知予定
協業期間	2026年2月2日（月）～2027年4月30日（金） ※実施期間だけではなく、ヒアリングや計画策定の打ち合わせや準備期間、また終了後の広報ご協力の期間も加味した期間です。
応募方法	下記フォームに、貴校（団体）の基本情報と、学校の現状と取り組んでみたい内容について入力し、ご送付ください。

	応募フォーム： ※途中500～800字程度の文章の入力が何度かありますので、事前にご用意いただきましてから、入力していただくことをお勧めしております。
--	---

6．ICT環境に関する応募要件（審査対象）

本チャレンジは最先端の生成AIを活用した取り組みであり、その効果的かつ安全な実践には、安定したICT環境が不可欠です。書類審査（一次）および、学校管理職同席のオンラインヒアリング約1時間程度（二次）においては、下記の項目を貴校のICTスペックに関する確認事項として、総合的に評価いたします。

1．ネットワーク・インターネットインフラ

確認事項	評価基準・詳細
インターネット回線速度	同時接続端末数に対して、生成AIサービス（クラウドサービス）の利用に耐えうる十分な実効速度（上り・下り）を確保していること。
同時接続の安定性	ピーク時における全端末の同時接続に耐えうるネットワーク設計がなされていること。

2．端末（デバイス）環境と管理体制

確認事項	評価基準・詳細
学習用端末の整備	生徒一人一台の学習用端末（タブレットまたはPC）が整備され、日常的に活用可能な状態にあること。
端末の基本スペック	導入端末が、AI活用に必要なWebブラウザやアプリケーションの動作環境を満たしていること。
使用可能なツール	Google Workspace for Educationを使用しており、GeminiとNotebookLMの使用が可能なこと

3．教室設備と運用サポート

確認事項	評価基準・詳細
ICTサポート体制	教員や生徒からの技術的な問い合わせに対応できるICT支援員または専門業者によるサポート体制が整備されていること。

7. 応募フォーム内の質問項目

応募フォーム内の質問項目を以下に記載いたします。フォーム入力の際のご参考にさせていただきます。

- 本チャレンジへの応募は、校長先生（または教育長）の推薦・承認を得ていますか？

※本チャレンジは組織的な変革を伴うため、管理職の皆様のコミットメントを選考の前提とさせていただきます。

- 貴校（貴教育委員会）が、現在最も深刻に捉えている「教育課題」を、具体的に教えてください。（800字目安）

※「先生方の多忙化」「個別最適な学びの壁」といった一般的な課題だけでなく、例えば「〇〇科の授業準備に毎晩〇時間かかっている」「生徒の学習意欲の差が激しく、特に〇〇の単元についていけない生徒が多い」「不登校の生徒が全体の〇%おり、個別の対応が十分にできておらず数字が毎年〇%増え続けているが教員が〇〇に時間をとられていたり、人不足の背景から打開策が見いだせない」など、現場の具体的な状況や背景をご記入ください。

- 上記の課題に対し、これまでどのような取り組み（ICT活用、研修、業務見直し等）をされてきましたか？ また、その「成果」と「限界（上手くいかなかった点）」を率直にお聞かせください。（500字目安）
- 本チャレンジ（生成AIの活用）によって、上記の課題を「どのように」解決・変革したいですか？（800字目安）*

※「業務効率化」に留まらず、それによって生み出された時間で「生徒との関わりをどう変えたいか」「どのような教育活動を実現したいか」など、貴校が目指す具体的な未来像をご記入ください。

- 本チャレンジを推進する校内（庁内）の「中核メンバー」は、どのような方々を想定していますか？*

※先の記載の通り、二次審査には管理職と担当の先生最低2名のご参加が必要です。
例：校長、教務主任、情報担当、1学年主任など、本気で変革を推進できるチーム構成案をご記入ください。

《お問い合わせ》

株式会社エデュテクノロジー 「AI教育共創チャレンジ2026」事務局

メール：contact@edutechnology.co.jp（担当：羽生（ハブ））